

**平成 22 年
(2010 年)**

明治29		明治31年 洪水		明治3234		明治37年 洪水		明治43 大正11		昭和7 昭和22		昭和2627 昭和36		昭和37年 洪水		昭和3940		昭和45年 洪水		昭和50年 洪水		昭和56年 洪水		昭和57		昭和63年 洪水		平成9		平成13年 洪水		平成16		平成1922			
旧河川法制定 北海道開拓使の設置		代表地点雨量 (mm/3日) 札幌158旭川163 ・氾濫面積：1,500km ² ・死者：112名 ・被害家屋：186百戸 ・原始河川 ・開拓使にとって初めて遭遇する洪水 ・開拓使をうちのめす ・この洪水後、中央政府へ河川改修に関する多数の涙ぐましい嘆願書が出される ・治水調査会設置		代表地点雨量 (mm/3日) 札幌177旭川152 ・氾濫面積：1,300km ² ・死者：不明 ・被害家屋：160百戸 ・調査中の大洪水		大洪水 石狩川治水事務所創設 第一期拓殖計画の策定 「石狩川治水調査報文」		大洪水 第一期北海道総合開発計画の策定 北海道開発局発足		大洪水 大洪水 大洪水		大洪水 大洪水 大洪水		代表地点雨量 (mm/3日) 札幌203旭川95 富良野170 ・氾濫面積：661km ² ・死者：7名 ・被害家屋：412百戸 ・ほぼ無堤 ・捷水路工事により発生した掘削土を河岸沿いに置いていた程度 ・堤防整備の必要性再認		新河川法制定 石狩川工事実施基本計画策定		代表地点雨量 (mm/2日) 旭川201.5 ・氾濫面積：28km ² ・死者：5名 ・被害家屋：76百戸 ・石狩川上流域の治水整備の契機となる		代表地点雨量 (mm/3日) 札幌175旭川193 夕張164 ・氾濫面積：292km ² ・死者：9名 ・被害家屋：206百戸 ・暫定堤防(HWL程度) ・越水破堤		代表地点雨量 (mm/3日) 札幌229旭川124 ・氾濫面積：57km ² ・死者：1名 ・被害家屋：122百戸 ・2山洪水であり、再度災害に対して不十分 ・中下流部の越水破堤		工事実施基本計画改定		代表地点雨量 (mm/3日) 札幌66岩見沢159 石狩沼田425 ・氾濫面積：65km ² ・死者：0名 ・被害家屋：20百戸 ・雨竜川流域中心に浸水		河川法改定「河川環境の整備と保全」が追加		代表地点雨量 (mm/3日) 札幌153旭川169 ・氾濫面積：38km ² ・死者：0名 ・被害家屋：70戸		昭和50年8月洪水とほぼ同等規模の洪水だったが、河川事業の進捗により外水氾濫面積は1/100以下。		石狩川水系河川整備基本方針策定		治水100年 石狩川河川整備計画策定	
明治31年洪水(砂川)市街地浸水の状況		明治37年洪水(浦臼)農地冠水被害状況		昭和37年洪水(北村)手造りリカダで避難		昭和45年洪水(上川町)家屋浸水の状況		昭和50年洪水(月形町)月形町福祉センター浸水の状況		昭和56年洪水(札幌市)発寒川屯田付近市街地浸水		昭和63年洪水(北竜町)北竜橋右岸より農地冠水の状況		平成13年洪水(長沼町)町営住宅の床止浸水																							
M31		M32		M42M43		S7S16		S47		S47		S47		S47		S47		S47		S47		S47		S47		S47		S47		S47		S47		S47			
低水工事 舟運のための 流木処理		本格的治水計画調査		本格的治水工事着手		豊平川切替工事 夕張川切替工事		石狩川捷水路工事(29ヶ所)		堤防整備 本格化		石狩放水路(札幌市)		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路		石狩放水路			
開拓当時のようす		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文			
新水路の掘削を行う エキスカベーター		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文		治水調査報文			
土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃		土地利用の変遷 明治30年頃			
明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人		明治42年 全道人口約154万人			
M2-M14 土族授産		M19-M33 開発の基礎条件の整備		M43-S元 未開地の処分		S2-S21 農耕適地の 開墾		S22-S26 緊急開拓及び 食料増産		S27-S31 第1次 5ヵ年計画(資源開発)		S33-S37 第2次 5ヵ年計画(産業振興)		S38-S45 産業構造高度化		S46-S52 高生産・ 高福祉社会建設		S53-S62 総合環境の形成		S63-H9 力強い北海道形成		H10-H19 自立する北海道の実現															
開拓使 三県一局 初期北海道庁 北海道10年計画		北海道第一期 拓殖計画		北海道第二期 拓殖計画		戦後緊急開拓 第一期 総合開発計画		第二期 総合開発計画		第三期 総合開発計画		新北海道 総合開発計画		第五期 北海道総合開発計画		第六期 北海道総合開発計画																					
M7 樽前山大噴火		M37 日露戦争勃発		T12 関東大震災		S20 第2次世界大戦終戦		S29 洞爺丸台風		S39 東京五輪		S45 大阪万博		S47 札幌冬季五輪		S52 王貞治通産756号HR		S60 青函トンネル開通		平成元 ベルリンの壁崩壊		H10 長野冬季五輪															

国土交通省 北海道開発局